

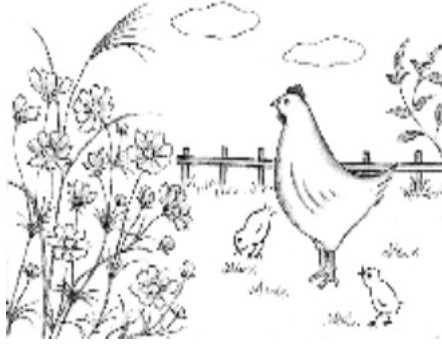
# 泉のほとり

●三位一体後第十八主日

今月の詩編「第三十五編」

わたしの魂は主によつて喜び躍り

御救いを喜び樂しみます。



## 真理の霊が悟らせること

「世はあなたがたを憎む。わたしを迫害したのであれば、あなたがたをも迫害する」と語られた主は、弟子たちになお「これらのことを話したのは、あなたがたをつまずかせないためである。人々はあなたがたを会堂から追放する。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考え、時が来る」と告げられました。

これまでヨハネの福音書が一貫して示し続けてきた人間の闇は、自らの闇を闇と見ることなく、むしろ光と見ていることでした。キリストを十字架につけ、殺したのも彼らには闇の業ではなく、神に仕えること、むしろイエスを闇として処断したと認識していたのです。そして今後、弟子たちも同じ目に遭うと言われるのです。弟子たちを会堂から追放し、殺しても、人々は神への奉仕、悪を取り除いた、正しいことをしたと思うのだと。

弟子たちこれまで、主が自分たちから離れて行かれることが不安で、心騒いでいたのです。しかし、今は主が去っていくことへの不安より、それら迫害が自分たちの身に降りかかることの予告を受け、悲しみに満ちています。その弟子たちに、主はもう一度、ご自分が去って行かれることを思い起こさせて、言われます。「実を言うと、わたしが去って行くのはあなたがたのためになる。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る」と。

ここで「弁護者」と言われる「聖霊」は信じる者の全人格を生まれ変えてくださる助け主です。聖霊が来られ、「罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする」と言われました。今は自分たちの身に降りかかる迫害に悲しんでいる弟子たちですが、その悲しみと苦難と死を通ることが負けているかのようにですが、実際にはキリストが復活によって勝利されたように、世に打ち勝つことであること、輝く勝利の道であることをお示しくださるのです。そのようにして世の罪が裁かれ、神の義が成し遂げられることを明確にしてくださいなのです。

主は「真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである」とも告げられました。何よりも世に根付いて物事を見ることなく、罪について、義と裁きについての明確な知識に生かされる彼ら弟子たち。この世にあつて「憎まれる」ことは避けられない、必ず自分たちの身に起こることと見ていたのです。人々が弟子たちを追放し、殺す者たちが神に奉仕していると思うことも、これから起こることとしてはつきりと見たのです。

その使徒たちにとつて最も大きな苦しみは憎まれること、迫害されること、そのこと自体ではなかったかもしれない。世の闇を闇と示し、その業を偽りと示し見せても気づかず、むしろ神に仕えていると思う。その彼らをなんとか光に導こうとする努力が、働きが全く通じない。追放され、殺されることそれ自体より、彼らをその闇から引き上げようにもどうにもならないそのもどかしさ、無念さ、その悲しみが最も彼らの苦しみだったと思います。彼らは迫害する者たちのために心が焼かれてしまうほど切実に祈る心、祈らないではいられない心、そのために流す涙の量は測り知れないほどだったと想像します。しかし、その涙は闇から光へと移された事実がいかに絶大なものなのか、その喜びが源であつたことをも思うのです。

この世にあつてキリスト者を待ち受けているのは垣々たる大路とは思えません。むしろキリストに真っ直ぐに従って歩む者にはあらゆる悲しみと困難、また患難が待ち受けているのです。不義が不義と見られず、真実の業が闇の業とされることもあります。しかし、その信仰の道はこの世では弱々しく、負けているようで、実際には勝利と栄光を見て生きる道です。聖霊なる主がその確信を私と皆さんに与えられ、これから起こることのどの場面でも信仰による勝利の道を歩ませてくださいますように。

2024年度

## 教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

### 《今日のお知らせ》

- 礼拝後、特別な集会はありません。
- 次回の洗礼式と転入会式は一二月二二日のクリスマス礼拝です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、一〇月六日までに牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

### 《ぶどうの会より》

礼拝後、第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

### 《運営委員会より》

この夏、多くの皆様が参加された夏季バイブルスクールで受けた恵について発表の機会を設けます。お気持ちのある方は事務所までお申し出ください。

○日時 一〇月二三日(日) 礼拝後の「交わりの会」の中で行います。

○発表内容等 七月三十日からの「創世記のはじめを語る、その後」、八月五日からの「聖書の翻訳について」、八月一二日の「ヨハネの手紙一・二・三(通読会)」の何れかに参加された方で、参加して受けた恵やその後の信仰生活が変わったこと等、お一人五分程度で自由に発表してください。

### 《教育奉仕委員会より》

十一月二日(土)湘南基督教墓苑で墓苑礼拝を行います。今年は事前に参加者を募ります。教会から現地までバスをご利用の方が多数の場合、バスを手配する予定です。バスの費用は、お一人につき六〇〇〇円です。参加をご希望の方は(自家用車、公共交通機関をご利用の方も)、本日中にスタッフの宮間兄までお知らせください。宜しく願います。

# 《ジュネーブ教会信仰問答》

## 第十六聖日

使徒信条「公同の教会、罪の赦しを信ず」に関して

問九九 しかしあなたが教会についていうこの聖きは、現在完きものですか。

答 いいえ、教会がこの世において戦っている間は、そうではありません。なぜならば、そこには常に、不完全さのもろもろの遺物がみられますから。すなわち、教会を聖化するかしらなるイエス・キリストに、教会が全く結び合わされるまでは、これらの遺物は決して取り除かれないであります。

問一〇〇 この教会は、それを信じる以外には知ることができないのですか。

答 神が、教会を知るためのもろもろの標識を、われわれにお与えになりましたから、確かに目に見える、神の教会が存在いたします。しかしながら、ここでもつばら、神が救いに選ばれた人々の群れについて語られているのであって、これは、眼で十分に見ることはできないのであります。

問一〇一 その次は、罪の赦しを信ず。

問一〇二 この赦しという言葉はどんな意味ですか。答 神がその無償の好意をもって、信徒たちのもろもろの過誤を赦し、これを取り除いて下さり、かくして、神の審判の座でこれらの過誤が、彼らを罰するために数えられるようなことは少しもないという意味であります。

問一〇三 そのことから、償いによつてはわれわれは、神から赦される価値がないことがあります。

答 その通りであります。なぜならば、主イエスが価を払い、その刑をになわれたからであります。われわれの方からは、何も賠償を捧げることができません。かえつて神の純粹な贈与によつて、われわれのすべての罪の赦しをわれわれはただかねばならないのであります。

問一〇四 なぜこの個条を教会の後におくのですか。答 なぜならば、先ず神の民の仲間に入れられ、キリストの体との一致と結合を保ち続け、かくて教会の真の一員とならないう限り、誰ひとりとして罪の赦しをえることはできないからであります。

問一〇五 したがって、教会の外には、呪いと死しかないのです。

答 確かにその通りであります。信徒たちの群れから離れて、別に派を作ろうとするものは、すべて分かれていく限りは、救いを望むべきではないからであります。

# 《今日の子ども礼拝》

説教 「良い情報と悪い情報」  
聖書 民数記13章25〜14章4節  
説教者 吉村和雄 名誉牧師

# 《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)  
説教 「うろたえるな、恐れるな」  
聖書 ヨシユア記1章1〜9節  
説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分)  
讚美歌 301番 19番  
説教 「神の言葉を  
ないがしろにするのは良くない」  
聖書 使徒6章1〜7節  
説教者 宮間彰広兄





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 60番 353番  
説教 「悲しみが喜びに変わる」  
聖書 ヨハネ16章16～24節(新約 P.200)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「おお主よ、心より汝を愛す」

J.G.ガァルター&J.L.クラブス

### ○讃美歌60番

1. いずこにみたまの つどえるときにも  
見えざるみかみは ともにぞまします
2. 工人のわざなる 宮にはいままで  
くだけしころを すまいとしたもう
3. すくいのよろこび われらにみたしめ  
こよなきめぐみを うたわせたまえや
4. いのりのちからに のぞみをかたくし  
みくにをこの世に たてしめたまえや

アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「山に向かい」 C.ディック曲

山に向かい目を上ぐ

救けはいずこより？

主より来たる

足を強くし守り給え

わが神 まどろむこと無し

主は見守り 陰もて覆いたもう

日も月もあなたを撃つことなし

災い遠ざけて守り給え

出で立つ時も帰る時にも

主よ守り給え

今もとこしえに

山に向かい目を上ぐ

救けはいずこより？

主より来たる

山に向かい目を上ぐ

山に向かい われは目を上ぐ

### ○讃美歌353番

1. いずみとあふるる いのちのいのちよ  
あさ日とかがやく ひかりのひかりよ
2. この世のあたうる さちよりのがれて  
こよなき君へと わが身はあこがる
3. きみこそとこよに かわらぬよろこび  
くめどもつきせぬ めぐみのもとなれ
4. み顔をあおげば うれいは去りゆき  
み腕にたよれば ちからは湧きいず
5. 主イエスよ、たえせず わが身にともない  
ひかりのみちをば あゆませたまえや

アーメン

聖餐曲「来たれ、永遠の神なる聖霊」M.レーガー

後奏曲「カプリッチョニ長調」D.ブクステフーデ

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。